

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 15 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20390551

研究課題名（和文）乳がん患者のサポートグループの効果を高めるプログラム構成と有効性に関する研究

研究課題名（英文）Effectiveness and program composition in support group to enable breast cancer survivor to become wellbeing

研究代表者

増島 麻里子（MASUJIMA MARIKO）

千葉大学・大学院看護学研究科・准教授

研究者番号：40323414

研究分野：がん看護学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：乳がん、がん看護、サポートグループ、プログラム評価、がんサバイバー

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、研究者らが構築した乳がん体験者のサポートグループプログラム「乳がん手術体験者用サポートグループプログラム」の構成内容、および、短期・長期的な効果を明らかにし、乳がん患者の生活の質向上に効果的なサポートグループプログラムを確立することである。

研究期間内に明示する内容は、以下の 3 点である

- (1) 乳がん患者のサポートグループのプログラムの介入直後、および、介入後長期的な効果を、質的および量的な側面から明らかにする
- (2) 乳がん患者の生活の質向上に効果的なサポートグループプログラムを再構築する
- (3) 上記(1) (2)より、乳がん患者の生活の質向上に効果的なサポートグループのプログラム構成と有効性を明らかにする

2. 研究の進捗状況

- (1) 「乳がん手術体験者用サポートグループ」プログラム参加者の体験とプログラム構成に関する研究

プログラム参加者の体験および体験に影響するプログラム内容を明らかにするために、参加者 19 名（平均年齢 50.8 歳、術後平均期間 20.4 ヶ月）に対して、半構造的質問紙に基づくインタビューを行った。

分析の結果、31 の体験＜自分で病気に対処していけると実感する、家族にも言えない本音を話せる＞等、および、体験に影響する 4 つのプログラム内容[看護師による

情報提供、乳がん手術体験者同士の話し合い、セッションを重ねるプログラム形態、プログラムの運営方法]が明らかになった。

対象特性ごとの分析では、手術時に 45 歳未満であった 5 名（平均年齢 36.6 歳）は＜若年の乳がん体験者が直面する困難や課題を共有し気持ちが楽になる＞等の体験をしており、若年者同士のグループ編成を好むニーズがあった。繰り返し参加するリピーター 7 名（参加回数 2～3 回）は、＜繰り返し参加することは療養者としての自分を見つめる機会となる＞等を体験していた。

情報提供と話し合いを組み合わせた本プログラムは、参加者に肯定的な体験や変化をもたらす一方で、話し合いでのグループ編成や患者固有の問題に対するプログラム内容をさらに工夫する必要性が示唆された。

- (2) 「乳がん手術体験者用サポートグループ」プログラムの短期・長期的な効果に関する研究

①調査 1：

プログラムのアウトカムを評価するために、参加者 17 名（平均年齢 47.5 歳）に対して、短期評価：独自に作成した質問紙を用いて 4 つの各セッション直後に調査、および、長期評価：107～116 項目から構成される質問紙を用いてプログラム開始前から終了 1 年後までの 5 つの時期に評価、を現在継続的に実施している。

②調査 2：

プログラムのプロセスを評価するために、プログラム運営スタッフ延べ 63 名に対して、グループインタビューを行った。

現在、データは質的帰納的に分析している。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

研究遂行に向けて、研究代表者、研究分担者に加えて、がん看護専門看護師、乳がん看護認定看護師、心理学のポストドクターらを含む研究協力者を加えた約 20 名で研究組織を構成し、全体研究会議を各年度 6～8 回開催して討議を深めることができた。各年度に行う予定であった研究は、ほぼ計画通りの研究内容および研究方法で遂行できている。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度は、前年度と同様にサポートグループプログラムの実践を継続しながら、最終的な統合・まとめを図る。全体研究会議は 3 回／年を予定し、研究を遂行する。

(1) 「乳がん手術体験者用サポートグループ」プログラムの短期・長期的な効果に関する研究

調査 1、および、調査 2 の研究成果を統合して、本プログラムの有効性を考察する。

①調査 1 (継続) :

前年度の研究対象者に対して、開催終了日から 1 年後まで追跡する長期的なアウトカム評価を引き続き行う。

また、2011 年度はプログラムを計 2 クール (2011 年 6 月～7 月、および、2012 年 2 月～3 月) を開催する予定である。研究方法は、前年度に選定した評価方法を用いて、研究参加者の同意が得られたプログラム参加者に対して、開催期間中の 4 回の各セッション直後の短期的評価、および、開催前から 1 年後までの計 5 時点における長期的なプログラム評価を実施する。得られた資料は、質的分析および統計手法を用いた量的分析を行う。

②調査 2 (継続) :

2011 年度に開催する 2 クールのプログラムに関わる運営スタッフのうち、研究参加者の同意が得られた者に対して、前年度同様のグループインタビューを行う。

③研究成果の発信

研究成果は、2012 年 2 月に開催される第 26 回日本がん看護学会学術集会において発表することを計画している。調査 1 の短期評価および長期評価、調査 2 については、2011 年 8 月までに分析を進める予定である。

(2) 乳がん患者の生活の質向上に効果的なサポートグループプログラムの確立

サポートグループプログラムを先駆的に実践する欧米において情報収集を行う。現地では、サポートグループプログラムの構成内容や運営方法、サポートグループ実践における看護職者の役割、プログラムの評価方法、サポートグループ開催における課題等について、研究者または看護職者から情報収集を行う。得られた資料と本プログラムを比較し、本プログラムの課題と展望を検討する。

(3) 研究成果の統合と発信

これまでの研究成果、および、上記(1)(2)の成果を総合し、乳がん患者の生活の質向上に効果的なサポートグループの構成と有効性について考察を深め、最終成果を創出する。得られた研究成果は、国内外に発信できるように、雑誌論文や学会発表への投稿に向けて準備に取り組む。

5. 代表的な研究成果

[学会発表] (計 5 件)

- ① 増島麻里子、長坂育代、笠谷美保、土屋雅子、乳がん手術体験者のサポートグループにおける参加者の体験とプログラム構成の検討、第24回日本がん看護学会学術集会、2010年2月14日、静岡県
- ② 菅原聡美、奥朋子、浅井潤子、増島麻里子、乳がん手術体験者のサポートグループ修了後の「同窓会」における参加者の体験、第24回日本がん看護学会学術集会、2010年2月14日、静岡県
- ③ 西郁子、岡本明美、泰圓澄洋子、瀬尾智美、増島麻里子、乳がん手術体験者のサポートグループにおける参加者の体験とプログラム構成の検討—術後1年未満の者と術後4年以上の者との比較—、第24回日本がん看護学会学術集会、2010年2月14日、静岡県
- ④ 渡邊美和、神津三佳、柴田純子、吉田千文、増島麻里子、乳がん手術体験者のサポートグループにおける参加者の体験とプログラム構成の検討—リピーターに焦点をあてて—、第24回日本がん看護学会学術集会、2010年2月14日、静岡県
- ⑤ 阿部恭子、佐藤まゆみ、金澤麻衣子、増島麻里子、若年乳がん手術体験者のサポートグループにおける体験、第24回日本がん看護学会学術集会、2010年2月14日、静岡県